

第5回「民都・大阪」フィランソロピー会議 議事概要

1 日 時 令和元年6月3日(月) 15時から17時まで

2 場 所 大阪市役所5階 特別会議室

3 出席者

会議メンバー

池内 啓三	学校法人関西大学理事長
金井 宏実	認定特定非営利活動法人大阪NPOセンター代表理事
久保井 一匡	公益財団法人小野奨学会理事長
高 亜希	認定特定非営利活動法人ノーベル代表理事
白井 智子	特定非営利活動法人トイボックス代表理事
施 治安	「大阪を変える100人会議」顧問
出口 正之	国立民族学博物館教授
福岡 弘高	大阪府・大阪市副首都推進局総務・企画担当部長
藤田 清	公益財団法人藤田美術館館長
堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長
松井 芳和	大阪府・大阪市副首都推進局総務・企画担当部長
森 清純	公益財団法人大阪コミュニティ財団専務理事

4 議題

議題1 「フィランソロピー大会 OSAKA2019」について
議題2 会議規約の改正(案)について
議題3 「民都・大阪」フィランソロピー会議の運営のあり方について
議題4 その他

5 会議資料

次第・会議メンバー名簿・配席図

資料1-1 「フィランソロピー大会 OSAKA2019」について(案)
資料1-2 フィランソロピー大会 OSAKA2019 チラシ
資料1-3 「民都・大阪」フィランソロピー会議について
資料2-1 「民都・大阪」フィランソロピー会議規約等の改正について(案)
資料2-2 「民都・大阪」フィランソロピー会議規約(改正案)
資料2-3 「民都・大阪」フィランソロピー会議分科会運営細則(改正案)
資料3 「民都・大阪」フィランソロピー・プラットフォーム(案)について
参考資料 フィランソロピー関連国際会議の例

6 議事要旨

議題1 「フィランソロピー大会 OSAKA2019」について

- (1) 事務局から資料1-1及び資料1-2並びに資料1-3に基づき、フィランソロピー大会 OSAKA2019について説明。内容について、概ね了承された。
- (2) 意見等の概要は以下のとおり
 - ・パネルディスカッションについて、自治体としての関わりや役割に関する質問・意見等が出てくる流れも考えられるため、行政の会議メンバーにも登壇を求めたい。
 - ・日本民間公益活動連携機構（JANPIA）や2025年日本国際博覧会協会も大会に参加いただくこととなり、大会のさらなる集客に向けて、引き続き、会議メンバーのネットワークの力を発揮いただくよう、一層のご協力をお願いしたい。
- (3) 今後の対応
 - ・本日の意見等をふまえ、引き続き大会準備を進める。

議題2 会議規約等の改正について

- (1) 事務局から資料2-1及び資料2-2並びに資料2-3に基づき、会議規約等の改正(案)について説明。内容について、了承された。
- (2) 意見等の概要は以下のとおり
 - ・事務局が事前調整のため、会議メンバー毎にオフィスを訪問する等、負担が大きく、メールでできることはメールでやり取りすれば十分である。
 - ・会議を招集して議論を行うか、メール会議とするかどうかは議長が判断するということがよい。
 - ・メーリングリスト（以下「ML」という。）の運用については、セキュリティレベルを一定確保する等、リスクに関する問題をどうクリアするか十分な検討が必要ではないか。
- (3) 今後の対応
 - ・会議規約について、(案)のとおり改正を行う。
 - ・MLのセキュリティ確保に関して、必要な確認を行う。

議題3 「民都・大阪」フィランソロピー会議の運営のあり方について

- (1) 事務局から資料3に基づき、「民都・大阪」フィランソロピー・プラットフォーム(案)について説明。内容について、概ね了承された。
- (2) 意見等の概要は以下のとおり
 - ＜プラットフォームの運用について＞
 - ・様々な法人格の団体との連携組織が一つにまとまり、各団体がそれぞれの立場で、人々のニーズに合った仕掛け（仕組み）を検討・提案し、社会課題の解決に向けて取り組んでいく必要がある。
 - ・プロジェクト毎に準備委員会のようなものを設置し、現状に即した検討、取組みを進めるべきではないか。
 - ・プロジェクトの中心となるコンタクトパーソンは、会議メンバーあるいはメンバーが指

名・選出した者で構成すべき。このスキームは現実的で実効性があり、フィランソロピー会議はコアとして、緩やかなネットワークのハブの役割を担うということによいのではないか。

- ・メール（ML）での会議開催も公開を前提とするべき。
- ・会議に出席できないメンバーとも情報を共有する・意見を聞く、簡易な内容のものはメールで会議の意思決定を行うことによりメリハリをつける、フィランソロピー会議に賛同いただける方々を新たに募る等、メール（ML）の活用によって、これまでの会議の運営の課題の一部が解決できるのではないか。
- ・プラットフォームはメール（ML）で運用する以外にも、例えばフェイスブックのグループ機能を利用するというやり方もある。

<目標の設定>

- ・これまで形式や手段ばかりが先行した議論となってしまうている。メンバーが共有する「東京一極集中の打破」等、何をするのかの議論が抜け落ちている。目標は具体化しないと議論が進まない。テーマやターゲットをはっきりさせることが必要なのでは。
- ・NPO 法人や学校法人、社会福祉法人等の様々な法人格を持つ団体が一体となって、一つのゴールに向かうのは難しい。例えば、万博を共通テーマ・目標として議論していくのも一つのやり方ではないか。
- ・大会にしても、万博をテーマとすることにしても、府民、市民にとってメリットとは何か、インセンティブを与えることができるか等、府民、市民目線で考え、いろんな視点をもって取り組んでいくべき。
- ・メンバーへの事前調整や軽易な事項のためだけの会議開催（メンバーが集まったの）は必要ない。ただ、現状では会議の目標等について認識を共有できていない中で、メールだけで運用していくのは難しいのではないか。

(3) 今後の対応

会議の目標について、後日会議を開催し、再度議論を行う。

議題4 その他

- ・事務局から、令和元年5月20日開催の副首都推進本部会議において、フィランソロピーに関する国際会議に係る提案があったことを情報提供。